

2024年度「全国栄養士大会・オンライン」実施報告

2025年2月15日（土）



1

開催要領

CONFIDENTIAL

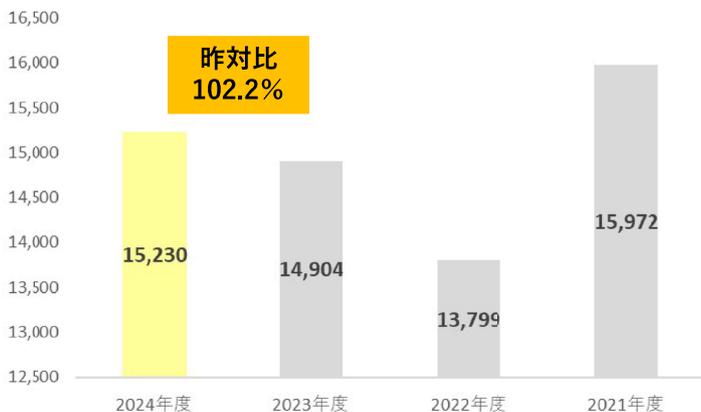
テーマ「認知～自分を知り、相手も知る～」

- 期 間：2024年10月9日（水）～12月8日（日）
- 会 場：公益社団法人 日本栄養士会ホームページ内（<https://www.dietitian.or.jp/>）に特設ページを設置
- 主 催：公益社団法人 日本栄養士会
- 対 象：管理栄養士・栄養士・養成校学生
- 受講料：公益社団法人 日本栄養士会会員、養成校学生は無料
- 単 位：実務研修90-110全分野共通 講義各1単位（ただし上限は8単位とする）
- 協 賛：アクティブシニア「食と栄養」研究会 / 味の素株式会社 / NPO法人うま味インフォメーションセンター / エスビー食品株式会社 / 大塚食品株式会社 / 大塚製薬株式会社 / 花王株式会社 / カゴメ株式会社 / キューピー株式会社 / キリンホールディングス株式会社 / 株式会社三盛 / 一般社団法人Jミルク / 鈴廣かまぼこ株式会社 / 一般社団法人日本即席食品工業協会 / S O M P Oヘルスサポート株式会社 / 第一出版株式会社 / トータル・ソフトウェア株式会社 / 一般社団法人日本食品添加物協会 / 松谷化学工業株式会社 / 株式会社 明治 / 森永乳業クリニコ株式会社 / 株式会社ヤクルト本社（敬称略）

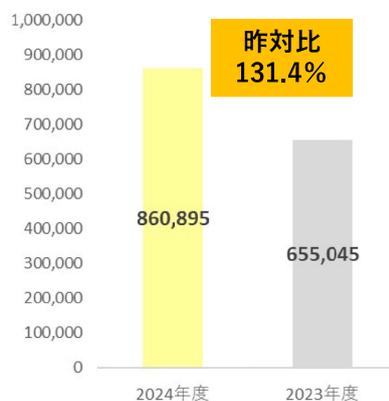
2

2ヶ月の期間中、特設ページ内に、
 ①講演動画、②オンライン展示会、③広告（デジタル、抄録）の、
 3種のコンテンツを常設、下記のとおり動員した。

総参加者数 (UU)



総ページ閲覧数

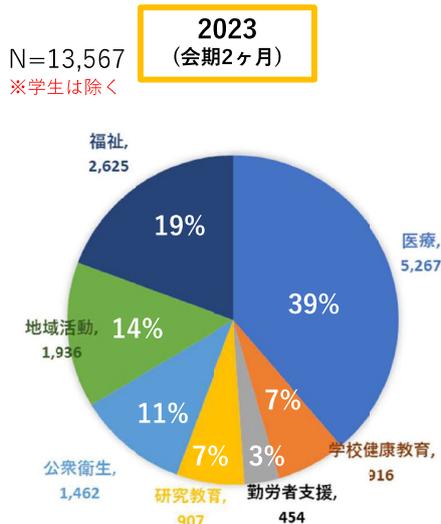
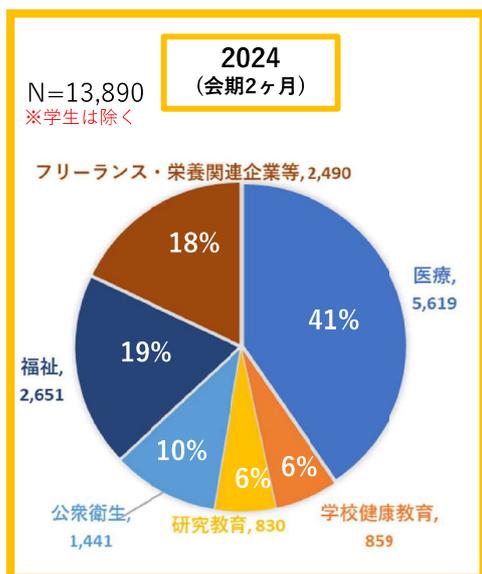


* サイトアクセスログより集計
 * 2024年10月9日（水）～12月8日（日）集計

- 今年度（開催中）は総参加者数 15,230名（昨対102.2%）
- 会員50,772名のうち、約30%が来場。なお、養成校学生の来場は1,278名（昨対103.1%）。
- 会員1人あたりの平均ページ閲覧回数は、57.0回（昨対比128.8%）であった。

参加者属性（職域）

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、
 参加者15,230名のうち、所属職域（活動領域）は以下のとおり。



職域	2024	2023	昨対比
	全体	全体	
医療	5,619	5,267	106.7%
学校健康教育	859	916	93.8%
労働者支援	-	454	-
研究教育	830	907	91.5%
公衆衛生	1,441	1,462	98.6%
地域活動	-	1,936	-
福祉	2,651	2,625	101.0%
フリーランス・栄養関連企業等	2,490	-	-
学生	1,278	1,239	103.1%
その他	62	98	-
	15,230	14,904	-

フリーランス・栄養関連企業等昨対比

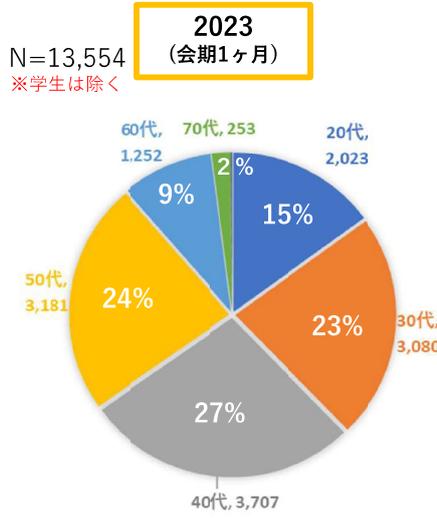
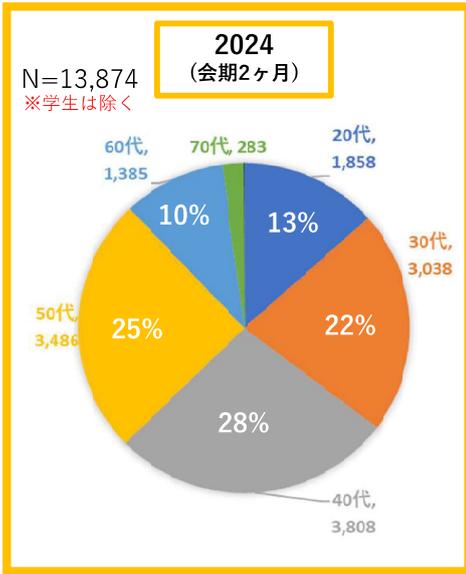
2024	フリーランス・栄養関連企業	2,490
2023	地域活動+労働者支援	2,390

昨対比104.2%

* サイトアクセスログより集計
 * その他=特別付与アカウント等

医療職域会員の参加割合が3pt増加した。
 開催月を夏休み期間から移行したためか、研究教育・学校健康教育の参加者数が減少傾向にある。

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、参加者15,230名のうち、年代は以下のとおり。



年代	2024	2023	昨対比
	全体	全体	
20代	1,858	2,023	91.8%
30代	3,038	3,080	98.6%
40代	3,808	3,707	102.7%
50代	3,486	3,206	108.7%
60代	1,385	1,267	109.3%
70代	283	254	111.4%
80代	15	16	93.8%
90代	1	1	100.0%
学生	1,278	1,239	103.1%
その他※	78	111	
	15,230	14,904	

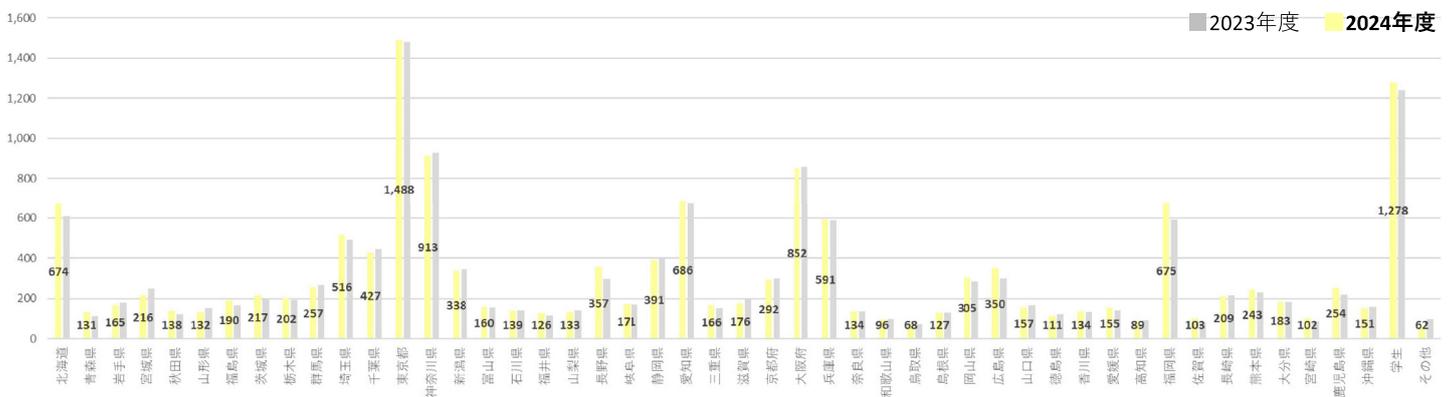
* サイトアクセスログより集計
* その他 = 特別付与アカウント等

参加者の年代は、昨年度に引き続き、会員の構成比率とほぼ同等。昨年と比較して、特に**20代の参加者数が減少**している。

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、参加者15,230名の所属都道府県栄養士会は、以下のとおり。

参加者所属都道府県

N=15,230



* サイトアクセスログより集計
* 2024年10月9日（水）～12月8日（日）集計

おおむね会員比率と比例している。また、集合型研修会の場合には、開催地近隣の参加が多勢を占める一方、オンラインにより、全国の会員の参加が顕著に。